

“いきいき子ども！あたたか家族！はつらつ先生！” 地域が支える【教育の板橋】

“学び合う、学び続ける人づくり！” 地域を創る【教育の板橋】

板橋区授業スタンダードS の実践を紹介します！

板橋区授業スタンダードS

子どもたちが、自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を
自己選択、自己決定し、学びを自己調整しながら進める学習過程

板橋区では、多様な子どもたち一人ひとりが、自らのよさや可能性を認識し、「生涯にわたって学び続ける力」を身に付けることを目指して「板橋区授業スタンダードS」に取り組んでいます。今回は、小学校と特別支援学級での実践をご紹介します。

子どもの豊かなイメージを引き出し、アイデアを実現する工夫 ～学び喜びを実感できる授業～

志村第一小学校 田村 久仁子 指導教諭
第6学年 図工「毎日をちょっと楽しくする わたしの家具」

自分の暮らしを見つめ直し、木の性質を生かしながら、家庭に置く、楽しく便利になる家具を考えて製作しました。

①児童の多様な発想を引き出す「作例と機能の提示」

児童が多様な形や機能を発想できるように、4つの作例（横型・箱型・縦型・車型）と6つの機能（引き出し・扉（蝶番）・仕切り・黒板・取っ手・蛇腹）を提示します。これらを組み合わせることで、児童が自分だけの家具を具体的にイメージできるようにします。

②アイデアの実現を助ける「動画配信」

様々な作り方動画を配信した図工のポータルサイトを教師が用意します。児童は、つくりたい形や機能に応じて、自分で動画を選択して視聴し、製作の見通しをもつことができます。

③学習状況を見える化する「黒板の活用」

製作活動に没頭しながらも仲間と学びを共有できるようにするため、黒板に「交流スペース」を設けます。誰がどのような学びをしているのか見えるようにすることで、お互いの工夫に関心をもてるようにします。

子どもたちにどんな力がつくの？

表現の意図に応じて材料や技法を選んで製作する技能、生活や社会に表現を生かそうとする態度などを育成します。児童が方法やペースを選択し、友達の工夫を生かして自己調整しながら学びを進められるように、教師が意図的に様々な工夫をしています。

一人ひとりの特性に合わせた支援の工夫 ～自立や社会参加をめざして～

中台小学校 錦谷 香江 指導教諭
第1～6学年 特別支援学級 生活単元学習「調べたことをまとめて発表しよう」
～5くみ 日本たんけんたい～

興味・関心が似ている児童がグループを組み、自分たちで調べる内容や方法、発表の仕方を決め、調べたことの発表会に向けて協力しながら活動しました。

①グループで調べ学習を行う

日本の地域や事柄、文化などについての興味・関心をもとに組んだグループに分かれ、ワークシートを活用して、日本について何を調べるか、図書やインターネットなど何を使って調べるか、調べたことをどのようにして記録するかを自分たちで決めます。

②一人ひとりの特性に合わせた支援の工夫

調べる内容が抽象的な児童には、問いかけを通じて具体化する支援を行います。自分のことに集中しすぎてしまう児童には、時刻を伝え、次に何をするかを考えさせます。また、図書やインターネットを使って調べる際、書くことや読むことが苦手な児童には代筆や代読を通じて理解を促すなど、一人ひとりの特性を把握し、実態に応じた支援を行います。

③わかったことやできたことを共有する

グループ内で調べて分かったことを発表し合ったり、めあてが達成できたかをふりかえったりします。友達と協力しながら活動することで、自分なりの方法で分かりやすく伝えたり、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりします。

子どもたちにどんな力がつくの？

子どもの特性に応じた支援を行ったり、教材を作ったりすることで、子ども主体で学習を進められるようにします。スモールステップで子どもの「わかった！」「できた！」を増やし認めることで、児童が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりと自立や社会参加のために必要な力を育成します。問いかけを大事にすることで子どもが自ら考える力を育てます。

「板橋区授業スタンダードS」を実践した授業では、学習の方法や場所等を自己選択することで、子どもたちが意欲的に学ぶ姿が多く見られます。また、自分の学びを振り返り、次の学習や他教科、生活などに生かそうとする姿も見られるようになってきました。今後もぜひ各学校の実践にご注目ください。

いじめを させない、見逃さない、許さない 街づくり

これはいじめでしょうか？

→本人が苦痛を感じていたら「いじめ」です。

○授業中、苦手な発言を求められた。

○あだ名で呼ばれた。

○SNSのグループに、自分だけ写っていない写真を公開された。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法 第2条）

いじめが起こったら学校では…

○担任の先生等を窓口として、学校や家庭、関係機関等が連携して対応します。

○「学校いじめ対策委員会」において学校長のもと、対応の方針を話し合います。

○いじめを受けた子どもを保護し、いじめを受けた子どもの不安や心配を受け止めます。

○いじめを受けた子どもやいじめを行った子どもに話を聞いたり、アンケートなどを行ったりして、正確な事実を把握します。

○いじめを行った子どもに対して、自分の行いの非に気付かせ、反省の気持ちをもたせるよう指導していきます。

○いじめを解消するのはもちろん、今後の学校生活の中で、どのように関わればよりよい関係を築くことができるか話し合います。

○再発防止の取組を行い、経過を観察します。

ご家庭では…

○子どもの様子で気になることがあれば、まずは学校に相談してください。板橋区教育委員会や東京都にも相談窓口があります。

【例】・最近元気がなく、表情がさえない
・話しかけるのを嫌がる ・持ち物がよくなる
・原因不明の体の傷や持ち物の汚れがある
・イライラすることが増えた
・頻繁にお金をねだる
・友達からの連絡に対して表情が暗い
・登校を嫌がる、体調不良で休みたがる など

相談窓口

板橋区教育総合相談（月～金曜日 9:00～17:00）

☎03-3579-2199

東京都教育相談センター「東京都いじめ相談ホットライン」

☎0120-53-8288（24時間受付）

第32回「いたばし国際絵本翻訳大賞」中学生部門の翻訳作品募集

絵本のまち板橋では、第32回「いたばし国際絵本翻訳大賞」中学生部門の翻訳作品を募集しています。区内の中学校に在籍する生徒を対象に、英語の絵本の翻訳作品を募集するものです。

絵とストーリーを楽しみながら、世界にひとつしかないあなただけのすてきな翻訳作品を作ってみませんか？

昨年度は345作品、553名のご応募をいただきました。

●対象：板橋区内の中学校に在籍する生徒

●締切：令和8年1月9日（金）

※学校から絵本館への提出期限です。

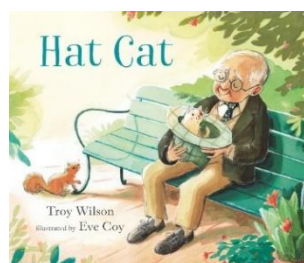
※参加方法・提出方法などは各中学校の先生にご確認ください。



詳細はこちら

【問合せ】いたばしボローニャ絵本館

☎6281-0560



Hat Cat

Text copyright © 2022 by Troy Wilson

Illustrations copyright © 2022 by Eve Coy

All rights reserved

<課題絵本>

『Hat Cat』（原文 英語）

15ページから29ページまでの翻訳

<あらすじ>

おじいさんは、家のテラスのベンチでリスとあそぶのが毎日のたのしみ。ある日、ベンチに置いたぼうしの下からこねこが出てきた。おじいさんはこねこをかわいがるようになり、こねこもおじいさんの家のなかでしあわせにくらしはじめる。

ところがある日、おじいさんは出かけたきり帰ってこず……。

郷土資料館のミニ企画展「むかしの道具と暮らし」

今では当たり前にあるテレビや掃除機、洗濯機などの家電製品が家庭に広まり始めたのは、今から約60～70年前の1950年代です。当時は高級品で、一部の人にとってのあこがれの存在でした。やがて1970年代になると、価格が下がり、さまざまな家庭で使われるようになりました。

家電は時代とともに改良され、より便利なものへと進化しました。そのため、壊れていなくても新しい製品に買い替えられ、古い家電は次第に姿を消していきました。

この展示では、昭和から平成にかけて活躍した昔の家電や生活道具を紹介しています。

展示期間：令和7年11月29日（土）～令和8年4月3日（金）



←むかしの炊飯器



←むかしの洗濯機



↑むかしのゲーム

上板橋第一中学校の改築にあたり、 生徒の意見を取り入れるためのワークショップを開催しました

【問合せ】新しい学校づくり課
☎:3579-2632

上板橋第一中学校は、現在改築工事を行っています。
新校舎の建設にあたり、生徒にとってより使いやすく、愛着を持てるものになるよう、メディアセンター(図書室)のインテリアについて、生徒の意見を聞くワークショップを開催しました。



ワークショップの概要

日 時:令和7年10月10日(金)5時限目

会 場:上板橋第一中学校(小茂根校舎)体育館

参加者:上板橋第一中学校 7年生 約50人

テーマ:メディアセンター(図書室)のインテリアを考える

ワークショップの様子

①新校舎のメディアセンター(図書室)について

はじめに、改築後の校舎全体やメディアセンター(図書室)の様子について、3DCGのイメージ映像を生徒たちに見てもらうことで、ワークに取り組む前に理解を深めました。



②個人ワーク

予め用意された選択肢から、新しいメディアセンター(図書室)にふさわしい椅子やテーブル、内装デザインについて個人で考える時間を設けました。



③グループワーク

1グループ5、6人程度の班に分かれ、個人ワークの時間に考えた意見をもとに、新しいメディアセンター(図書室)にふさわしいと思うインテリアについて、話し合いを行いました。



椅子やテーブルの実物が会場に展示され、生徒たちは形や使い心地を実際に触って確かめながら、意見を出し合っていました。

④ 発表

ふさわしいと思うインテリアについて、話し合いの結果を各班から発表してもらいました。展示されていた椅子とテーブルに触れてみて感じたことや、自分たちがどのようにメディアセンター(図書室)を使いたいかなどの視点を交え、全ての班がしっかりと意見をまとめていました。



ワークショップを終えて

上板橋第一中学校の生徒、教員や設計事業者などにご協力いただき、ワークショップではたくさんの良い意見をいただくことができました。また、生徒からは「新しい校舎が楽しみ」「早く完成してほしい」といった期待の声もあがっていました。

今回のワークショップで出た意見を参考に、新校舎のメディアセンター(図書室)のインテリアを決定し、より良い学校環境の整備に向けた改築工事を引き続き進めてまいります。

より魅力ある情報を発信するために
いたばし教育チャンネルについて、
アンケートにご協力ください。

